AOZORA NEWS

あおぞらニコニコ通信

2022 3月号

発行：社会福祉法人三田谷治療教育院
児童発達支援センター 明石市立あおぞら園／児童発達支援事業 明石市立きらきら
〒674-0092 明石市二見町東二見 1836-1 ふれあいプラザあかし西 2 階
TEL.078-945-0280 FAX.078-945-0281 http://sandaya.or.jp/aozoraen/

浅原奈緒子園長のご挨拶

今年度も、コロナウイルスの影響でいろいろなことが変更になりました。また、子どもたちに生活様式の変化に合わせた基本的な生活習慣や人との関わりなどをどのように身につけていってもらうかなど、いろいろと考えながら過ごした一年でした。

今回は、子どもたちの登園時にあったことをお話させていただこうと思います。いつも私は普通の不織布のマスクを着けて子どもたちを出迎えていますが、先日、不織布の真ん中がフィルムになっていて口元が見えるマスクを着けていました。子どもたちは、じーっと私の口元を見ながら不思議そうな顔をしたり、私の口に顔を近づけてきたり、いつもとは違う様子が嫌だったのか近づいてこなかったり、マスクが変わっていることに気付かなかったのか、いつもと同じようにあいさつをしてくれるなどいろいろな反応をしてくれました。そのなかで、ひとりのおしゃべりが上手な男の子が「ついてる・・・」と言ってマスクをしている私の口元に指を当ててきました。「ついてる？」「そうかぁ！そういえば、いままで私の口元を見たことがなかったんだ。」と思わず笑ってしまいました。彼にとっては、マスクを着けているのが私の顔で、そのマスクに何かが付いていると思ったのかもしれません。発達が凸凹している子どもの場合、見えていないものは無いものと思っていることがあります。コロナ禍が 3 年目となり、子どもたちに口元を見せる機会がほとんどない日常が続いています。家族には口があるけれども、家族以外の大人に口があることを知らない子どもがたくさんいるかもしれません。「家族やテレビ等で見る大人には口があるから、マスクを着けている身近にいる大人にも口がある」というように考えない子どもがいます。これは、笑っている場合ではないと思いました。また、口元を見る機会が減り、ことばを話す前段階で口形を見たり真似ることができないことも心配するところです。これからは感染症対策をしながら、もっと子どもたちに口元を見せることができるように毎日の生活を組み立てていきたいと思います。

口元が見えるマスクで朝の挨拶をする浅原園長

今年度もみなさまに支えていただきながら、子どもたちが成長できたことに感謝します。来年度も、子どもたちのために何が必要かを考えながら、より良い環境づくりに努め、子どもたちに合った療育を進めていきたいと思います。みなさまのご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

日本の伝統行事「節分」を体験！～きらきら 1 部、親子で鬼退治♪～

節分は、毎年職員も楽しみにしている行事の一つです。

節分にまつわる紙芝居を見たあと、「みんなで豆を作ろう！」と新聞紙を丸めて作りました。完成すると、鬼のパネルに向かって、「おにはーそと！」と新聞紙で丸めて作った豆を投げました。そこにリアルな鬼が登場し、子どもたちは驚いて保護者の方や職員にしがみついて泣いたり、逃げたり、中には戦おうと向かっていくお子様もいました。

みんなで豆を投げて鬼退治が成功すると、緊張が解けて大泣きする姿や、保護者の方に抱かれて安心している姿がみられました。そして、保護者の方や職員など慣れた大人が近くにいることで、怖いことがあっても子ども達が安心できる環境にあることはとても良いことだなと改めて感じました。

きらきらでは、経験を通して、怖い存在の鬼でも、「豆を投げたら大丈夫」ということや、日本の伝統行事である節分を知る機会になればと願います。（田中）

きらきら節分行事の様子

あおぞら園のこども達にとって最大の試練！ ～１年の中で一番ドキドキする節分行事～

今年も、年間行事の中で盛り上がる行事の１つで、職員も楽しみにしている「節分のつどい」を行いました。節分の鬼の登場はクリスマス会でのサンタさん登場とは違い、怖がったり、混乱したりすることも想定しながら、毎年お子様の様子に合わせてねらいや導入方法、活動内容を考えています。

今年も、各クラスお子様に合わせて、布製の鬼や鬼のお面をつけた職員に向って、新聞紙を丸めた豆を投げました。楽しく、投げているところに急に赤鬼に扮した職員が登場！怖くて泣いてしまったり、顔を伏せて見ないようにしたり、促されてやっつけようと豆を投げたりとお子様たちの反応は様々ですが、普段の療育の中では見られないお子様たちの表情を見ることができました。怖くてドキドキしたり､いなくなってほっとしたり、やっつけて「やった！」と喜んだりすることも大切な経験だと思います。いろいろな行事を通して、お子様の気持ちを育てていければと思います。（泉川）

いるか組の節分行事の様子

令和３年度後期あおぞらセミナー報告 ～プレイジム代表太田篤志先生を講師に迎えて～

令和３年度 後期あおぞらセミナーを開催しました。当初は場所をウィズあかしで予定していましたが､「まん防」が適用されたことにより、やむなく ZOOM での開催と、その様子を後日動画で見ていただくかたちに変更させていただきました。それにもかかわらず、当日は多くの方に ZOOM で参加していただき本当にありがとうございました。参加された方々には、太田先生の熱のこもったお話が伝わったと思います。

太田先生のお話は子どもさんたちへの温かいまなざしにあふれていて、言葉の端々から子どもの気持ちをとても大切にされていることを感じました。子どもにとって苦手なことを繰り返しさせるのでなく、今どきのツールもうまく使って、その子なりに考えたり工夫したり、発想したりするような、生きる力を育てていくことが大事なのだと理解しました。

理論的なお話と、実際の支援場面の動画などに加えてゲームや遊びもたくさん紹介していただき、次々に出されるものに見入っているうちにあっという間に終わってしまった感じでした。

今回、初めてセミナーを ZOOM で開催して、オンラインの良さも発見できましたので、これからも選択肢の一つとして活用できたらと思います。次回のあおぞらセミナーもよろしくお願いします。（吉川）

オンライン配信で行ったあおぞらセミナー

第２回みんな本気フェスタ開催に向けて準備中 ～明石市のユニバーサルイベントのお知らせ～

明石市立あおぞら園･きらきらが加盟しております特定非営利活動法人明石障がい者地域生活ケアネットワーク（略称：135E ネット）主催で明石市委託事業である明石市のユニバーサルイベント「第 2 回みんな本気フェスタ」が 2022 年 3 月 6 日開催に向けて現在、準備を進めています。

本イベントは同年 1 月 29 日に開催予定でしたが、兵庫県における「まん延防止等重点措置」の影響を受け、延期となりました。今回は「まん延防止等重点措置」期間中でも兵庫県や明石市の感染状況をみて､万全な感染予防対策を行ったうえで実施します。※2 月 28 日時点で兵庫県や明石市で感染状況が悪化すれば中止となります。

感染予防対策上、1 月 29 日に予定していた内容から時間や出展ブース等、縮小を余儀なくされましたが、障がいや国籍に関わらず､老若男女すべての方に楽しんでもらえるユニバーサルイベントとして開催する予定です。皆様ソーシャルディスタンスでぜひご来場ください！（服部）

出演予定の mazaki ベリーダンス（左） Do-it（右）